

観点別学習状況の評価と評定への総括について

基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることを重視していることから、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別学習状況の評価を基本として、生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要である。

評価が目標に準拠した評価であるので、目標、評価の観点を確認し、生徒の実態に応じて指導計画、評価計画を作成する必要がある。

1 目標と評価の観点及びその趣旨の理解

理科の目標

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

(1) 評価の観点及びその趣旨

自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識・理解
自然の <u>事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、事象を人間生活とのかかわりでみようとする。</u>	自然の <u>事物・現象の中に問題を見だし、目的意識をもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的、総合的に考察したりして問題を解決する。</u>	<u>観察、実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果及びそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。</u>	自然の事物・現象について、 <u>基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</u>

(2) 分野別の評価の観点の趣旨

	第1分野	第2分野
自然事象への関心・意欲・態度	<u>物質やエネルギーに関する事物・現象に関心をもち、意欲的に探究する活動を行うとともに、事象を日常生活と関連付けて考察しようとする。</u>	<u>生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関心をもち、意欲的に探究する活動を行うとともに、自然環境を保全し生命を尊重しようとする。</u>
科学的な思考	<u>物質やエネルギーに関する事物・現象の中に問題を見出し解決方法を考えるなどして観察、実験などを行うとともに、事象を巨視的、微視的にみたり、事象の生じる要因や仕組みを分析的、総合的に考えたりするなど、事象を論理的、実証的、客観的に考察して問題を解決する。</u>	<u>生物とそれを取り巻く自然の事物・現象の中に問題を見出し解決方法を考えるなどして観察、実験などを行うとともに、自然の事物・現象を時間、空間と関係付けて動的にみたり、事象の生じる要因や仕組みを分析的、総合的に考えたりするなど、事象を論理的、実証的、客観的に考察して問題を解決する。</u>
観察・実験の技能・表現	<u>物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画、実験による検証、結果の記録・考察など、探究する過程を通して規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したりして創意ある観察・実験報告書の作成や発表を行う。</u>	<u>生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画、実施、結果の記録・考察など探究する過程を通して規則性を見いだしたり、自らの考えを導き出したりして創意ある観察・実験報告書の作成や発表を行う。</u>
自然事象についての知識・理解	<u>観察や実験などを通して、物質やエネルギーに関する事物・現象についての原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。</u>	<u>観察や実験などを通して、生物とそれを取り巻く自然の事物・現象に関する原理・法則や基本的な概念を理解し、知識を身に付けている。</u>

・「評価の観点の趣旨」と「分野別の評価の観点の趣旨」の関連をふまえ、3年間を見通して学習指導要領の内容の第1分野及び第2分野の大項目(1)から(7)を内容のまとめ(単元)として、指導計画、評価計画を作成する。

2 観点別学習状況の評価の観点ごとの総括

(1) 単元における観点ごとの評価の総括

指導計画・評価計画の作成

- ・ 生徒の実態を指導内容に照らして事前に把握する。
- ・ 学校の指導計画をもとに生徒の実態に応じて改善する。

【評価計画表】 3年第2分野「地球の運動と天体の動き」

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象について の知識・理解	評価方法
第 一 次	1	地球の運動					発言・ノート
	2	星や太陽の動き					ノート・発言
	3	天体の日周運動					発言・ノート
第 二 次	14	金星の動き					発言・ノート
	15	惑星の特徴					レポート
	16	太陽系外に広がる宇宙					レポート

個別の評価記録用紙等の作成

- ・ 改善した指導計画をもとに、具体的評価規準と次時以降に行う指導を記入する用紙などを作成する。
- ・ 単元の総括を行う際に、次単元の指導に向けての指導の方向や個のよさを明確にする。

【個別の評価記録】 3年第2分野「地球の運動と天体の動き」 3年A組 9 氏名 藪田 美波

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象について の知識・理解	コメント
第 一 次	1	地球の運動	A			B	
	2	星や太陽の動き			B		
	3	天体の日周運動		C			どこから見ているかをまず指導
第 二 次	14	金星の動き		C			図の見方を説明させる 空間認識を
	15	惑星の特徴	A		B		
	16	太陽系外に広がる宇宙			B		
単元の総括			A	C	B	B	
次単元の指導のために				対象となる事象を外 からみるなどと視 点を明らかにする。	科学用語を正しく用 いて表現するように 指導する。		

【個別の評価記録】 3年第2分野「地球の運動と天体の動き」 3年A組 18 氏名 岐阜 太郎

次	時	学習内容	自然現象への関 心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の 技能・表現	自然現象について の知識・理解	コメント
第 一 次	1	地球の運動	A			C	全身で動きを確認できるように
	2	星や太陽の動き			A		
	3	天体の日周運動		B			
第 二 次	14	金星の動き		B			図の見方をモデルで確かめさせる
	15	惑星の特徴	A		B		
	16	太陽系外に広がる宇宙			A		
単元の総括			A	B	A	C	
次単元の指導のために			個別に具体物进行操作 させる。		自分なりの言葉に置 き換えられる。	補充的な学習を設定 する。	

(2) 学期末における観点ごとの評価の総括

- ・ 学期末における観点ごとの評価の総括をする場合、何のために、何に基づいて、どのように評価するかを明確にしておく必要がある。
- ・ 通信簿に評価の観点を記載する場合、授業との関連、指導との関連などから記載する評価の観点の表現について年度当初に検討する。

3 学期制で年間単元配列表が下記のような場合

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
単元名 (指導時間)	生物の細胞とふえ方(12) 運動と力(10) エネルギー(12)				地球と宇宙(19) 科学技術と人間(13)				自然と人間(14)		

- ・ 単元が学期をまたぐ場合には、その単元の扱いをどのようにするかを生徒にも説明する必要がある。

3 観点別学習状況の評価から評定への総括

評定に当たっては、評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意することが望まれる。その際、観点別学習状況の評価を、どのように評定に総括するか具体的な方法等については、各学校において工夫することが望まれる。

(指導要録の改善等についての通知より)

(1) 基本的な考え方

観点別学習状況の評価	
十分満足できる	A
おおむね満足できる	B
努力を要する	C

評定	
特に程度の高いもの	5
十分満足できる	4
おおむね満足できる	3
努力を要する	2
一層努力を要する	1



関心・意欲・態度	思考	技能・表現	知識・理解	評定
A	A	A	A	4又は5
⋮	⋮	⋮	⋮	
B	B	B	B	3
⋮	⋮	⋮	⋮	
C	C	C	C	2又は1

上記の場合を除き、各観点ごとのA, B, Cが決まれば、評定も必然的に決まるものではなく、様々な組合せが考えられる。

(2) 学年末における観点ごとの総括と評定への総括

各学期ごとに集計した結果について、年間の総括をする。

	氏名	学期			観点別の総括	評定
		観点	1 学期	2 学期		
1	岐 阜 太 郎	関心・意欲・態度	A	A	A	4
		科学的思考	A	A	A	
		技能・表現	A	B	A	
		知識・理解	A	B	A	

単元ごとに集計した結果について、年間の総括をする。

	氏名	単元							観点別の総括	評定
		観点	生物の細胞とふえ方	運動と力	エネルギー	地球と宇宙	科学技術と人間	人間と自然		
1	岐 阜 太 郎	関心・意欲・態度	A	A	A	A	A	A	4	
		科学的思考	A	A	A	A	A	A		
		技能・表現	A	A	A	B	A	A		
		知識・理解	A	A	B	B	A	A		

